

## 唐代の石刻資料にみる僧侶と經典 — 大藏經資料を中心として

シルヴィオ・ヴィータ  
(イタリア国立東方學研究所)

近年、『大藏經』の歴史研究が次々と目覚ましい發展を見せている。中國や日本の研究者がその膨大なコレクションの初期段階を究明し、いわゆる寫本期の様々な側面が明らかになった。大藏經そのものの構成と成立だけでなく、それにかかわる社會風習、制度的背景などが、中國中世の佛教文化の一齣としてより明確な形で認識されるようになった。

そういった一連の研究の中では様々な資料が使われてきたが、碑文などの石刻資料もそれなりの割り合いをしめている。とはいえ、大藏經研究との關連で石刻資料の體系的な収集と判讀がおこなわれてきたとはいいいがたいであろう。そのような資料から補足情報を得る目的で、本發表ではいくつかのテキストを紹介しながら唐代の大藏經に、いろいろな形でスポットをあててみたい。それによって、この時代の僧侶が、どのように經典、とくに大藏經の傳流に關わってきたかを考える。

Silvio VITA シルヴィオ・ヴィータ

1954年生

イタリア東方學研究所長

主要著作 “Interpretations of Mahayana Buddhism in Meiji Japan: From Religious Polemics to Scholarly Debate” “Li Hua and Buddhism” *Buddhist Asia 1: Papers from the First Conference of Buddhist Studies Held in Naples in May 2001* (co-editor) “Printings of the Buddhist ‘Canon’ in Modern Japan” *The Manuscripts of Nanatsudera, a Recently Discovered Treasure-House in Downtown Nagoya*, by Ochiai Toshinori, translated and edited by Silvio Vita ほかに多数